アジアの管絃の現在―地域共有の可能性―香港現代音楽祭Musicarama2014 を起点に―

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 京都市立芸術大学音楽学部 公開日: 2020-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 典子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15014/0000000320

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.

報告

アジアの管絃の現在―地域共有の可能性

―香港現代音楽祭 Musicarama2014 を起点に―

中　村　典　子

The Present Time of Music from Asia ―The Possibility of Regional Sharing:
Starting from Musicarama 2014 Hong Kong Contemporary Music Festival

NAKAMURA, Noriko

0. はじめに
   音楽近代化 150 年を迎える東アジア日中韓 3 カ国―音楽で共有する地域と世代
1. 香港ムジカラマ音楽祭 2014
2. series 邂逅 2015 から東アジア文化都市 2017 京都へ
3. アジア作曲家連盟韓国カンファレンス・フェスティバル 2018
   （ソウルアーツセンター、淑明女子大学校、漢陽大学校、イルシンホール）
4. チャイナアセアンミュージックフェスティバル 2018
   （広西芸術大学［廣西藝術学院］）
5. 日本音楽家訪中団
   （北京首都師範大学・中央音楽学院・四川音楽学院、第 12 回金鐘賞閉幕音楽会）
6. 結び―地域共有の可能性―

0. はじめに　　ー香港ムジカラマ音楽祭 2014 を起点にー

明治の音楽近代化以来 150 年となる 2018 年を 10 年後に見据えて始めた中村研究室に拠を置くアンサンブルを母体とした音楽創造活動を 2007 年以来十数年継続、2013 年よりは筆者の身体状況で学内施設で諸々のクラス登録学生とエキストラ学生と外部プロフェッショナル演奏家と教員が共に行っている。近代化 151 年目の 2019 年 12 月 22 日の国際音楽祭アジアの管絃の現在 2019-20 では、アンサンブル ensemble clumusica の定期演奏会は 34 回目を迎えた。主な動きをまとめると、1. コト始め - 研究室発国際現代音楽祭 アジアの箏の現在、2. 国際現代音楽祭アジアの管絃の現在 2013 より 2020 へ、3. 国際フェスティバルアジアの音舞の現在 2013 より 2019 へ　4. シリーズ邂逅 2015 より 2020 へ　5. 大枝インターナショナルオルタナティヴフェスティバル 2015 より 2020 へ　、となる要（かなめ）のアジアの音楽の現在について、と

なる。

一作曲研究室が研究室発国際現代音楽祭を世界発信することは、京都芸大に邦楽科の存在がないという属性なしに始まらなかった。音楽学部は西洋管弦楽である為補わずにはいられない。結果として2012年1月8日、京都市国際交流会館イベントホールでイタリア、香港、韓国、日本各地の作曲家と共に、箏独奏あるいは箏と西洋楽器・声楽のアンサンブルの10作近い新作を含む20作近い近年の作品が演奏されるに至ったのである。

国際現代音楽祭＜アジアの管絃の現在＞についてはこれまで5つの報告にまとめている。そこで、テーゼとなる”すべての世代と地域をつなぐ”音楽近代化150年を迎える東アジア日中韓の音楽でつなぎ共有する世代と地域の状況を、筆者中村の参加した各国各地域の音楽祭から、国際現代音楽祭＜アジアの管絃の現在＞の初源、起点の姿を再確認し、地球市民の日常を連携深化させる国際音楽祭を営むひとりひとりがその起点となる可能性を一層ひらきたい。

1. 香港ムジカラマ音楽祭2014を起点に

すでに参加から5年以上が経過する香港ムジカラマ音楽祭2014は、音楽新文化と題したすべての世代と地域の究極の共有の姿で、筆者が京都芸大と京都、関西、日本、東アジア圏、欧米圏各地をつないでいる研究室主催の国際現代音楽祭継続の原動力となっている。

2014年の香港ムジカラマ音楽祭の4つの演奏会から、筆者の参加した韓国現代音楽アンサンブル・エクラを香港に迎えての演奏会は、香港の小学生達がそれぞれ父母祖父母など家族と共に夜8時からの演奏会にぎっしり参加していた。

尋ねてみると香港コンポーザーズギルド［作曲家組合］の登録作曲家達は香港各地の小学校の小学生達にボランティアで現代の音楽を届けている。その返礼として小学生達は家族全部で外来アンサンブルの演奏会に来場して現代の音楽を聴き通す。その地域のすべての世代で会場は満員である。

2014年11月8日（土）香港ムジカラマ音楽祭2014　香港西湾河文娯劇院
主催：香港コンポーザーズギルド
コンサートプロデューサー：ファビウス・リー・カータイ［李家泰］
《エクラ［光輝］- アジアの燦き　アンサンブル・エクラ［韓国］》
金眞珠（韓国）：ジャスミンの香り（2014）（世界初演）　金重希（韓国）：サウンド・ドローイングⅣ（2014）（世界初演）　ファビウス・リー・カータイ［李家泰］（香港）：ベターハーフ［我が良き半身］（2014）中村典子（日本）：サクラ［櫻花］（1993）パン・チュンティン［彭振町］（香港）：脈動する庭園（世界初演）ステファン・イップ［葉樹堅］（香港）：隠者…都市からの誘惑（世界初演）
演奏：アンサンブル・エクラ［韓国］

フルート：ソアン・チュン　クラリネット：ホスプ・ソン　ヴァイオリン：スンフン・コー　ホンジョン・キム　ヒョジュン・ヨー　ヴィオラ：スミン・セオ　チェロ：ミサ・カン　ダブルベース：ドヨン・キム　ピアノ：ジュンジェ・ムン　指揮：ジンソ・キム
RTHK ラジオ 4 FM ステレオ（2014 年 11 月 15 日・20 日放送）

2. series 邂逅　2015 から東アジア文化都市 2017 京都へ

ensemble clumusica が韓国大邱の現代音楽アンサンブルと交流、series 邂逅で京都芸術センターと大邱芸術発展所スチャンホールで相互に冬の海外公演を行う。ほどなく＜東アジア文化都市 2017 ＞が京都（日本）大邱（韓国）長沙（中国）の三都市で始まり、一年間の様々な事業開催の最終では、日中韓の作曲家演奏家で新作協奏曲を世界初演した。

2015 年 1 月 23 日（金）series 邂逅　邂逅之絲　京都芸術センター 講堂
主催：オフィス・ミュージックメッセージ［代表：柳楽正人］共催：京都芸術センター
https://nakamura89.exblog.jp/d2015-08-18/
中村典子：光 lumen, quod natum est LICHT［二十五絃箏］斎 zhai［箏］斎 sai［ヴァイオリン独奏］ ヨンギ・パク = パーン（朴琶案泳姫）：雅歌［チェロ独奏］Credo 六段（グレゴリオ聖歌 = 八橋検校）［パンソリ、箏］春香傳 より［パンソリ］ キム・ジュンヒ［金重希］：夢なり［パンソリ、ヴァイオリン、チェロ］
empty note 声：オ・ヨンジ　ヴァイオリン：キム・ジヒェ　書：シムヒャン　clumusica 箏・二十五絃箏：横山佳世子　チェロ：大西泰徳　作曲・語り：中村典子

2016 年 1 月 30 日（土）series 邂逅 2　響律動夢　禱櫻命運　大邱芸術発展所 スチャンホール（韓国）
主催：empty note 共催：clumusica　京都市立芸術大学音楽学部中村研究室
中村典子：響 resonare（世界初演）チャン・ウィンワ［陳永華］：将進酒 JANJINJU（世界初演）キムジュンヒ［金重希］：動 momentum（世界初演）キム・ジュンヒ［金重希］：夢 somnia（韓国初演） 中村典子：禱 oratio（世界初演）中村典子：櫻 Sakura（大邱初演） チャン・ウィンワ［陳永華］：輝映 SHINING（世界初演）キムジュンヒ［金重希］：Destiny（韓国初演）
empty note：キムジュンヒ（作曲）キム・ジヒェ（ヴァイオリン）オ・ヨンジ（声）clumusica：宮本妥子（打楽器）麻植美弥子（箏）眞田彩（ヴァイオリン）中村典子（作曲・打楽器）ゲスト：チャン・ウィンワ（作曲・香港作曲家作家協会会長・香港大学芸術学部副学部長） カヤグム：オム・ヨンスク　チェロ：オ・ソヨン　パフォーマンス：シムヒャン（書）リ・モクル（書）

2017 年 12 月 22 日（金）series 邂逅 encouter Project IV 共響 vox maiorum　京都市立芸術大学大学会館ホール主催：京都市立芸術大学音楽学部・同大学院音楽研究科作曲専攻中村研究室

ダイ・ボ［代博］（北京 , 中国］：ピアノ協奏曲（2017, 世界初演）変更→ガオ・ピン［高平］：蔓 Vines（日本初演）　キム・ジュンヒ［大邱 , 韓国］：声，ヴァイオリンと弦楽オーケストラのための《公無渡河歌》（2017, 世界初演）イム・ジソン［韓国］：《希望は羽のある小鳥》ピアノ独奏，マリンバを伴う弦楽の協奏曲（2017, 世界初演）中村典子［京都 , 日本］：《未跡》二十五絃箏と弦楽の協奏曲（2017, 世界初演）

ensemble clumusica ピアノ独奏：代博　ピアノ独奏：森本美帆　ヴァイオリン独奏：キム・ジヒェ　ソリ独唱：オ・ヨンジ　二十五絃箏：横山佳世子　　ヴァイオリン：ツァオ・ユーハン［ヴァイオリン］　指揮：高昌帥［大阪音楽大学教授］　中村典子［京都市立芸術大学音楽学部准教授］　アンサンブル・クラムジカ（弦楽オーケストラ）：中村公俊　水野万裕里　柳原史佳　古味亜紀　江口純子　大藪英子　三上さくら　木田奏帆　小高睦　孫工恵嗣　西村まなみ　古味寛康　池田源輝　上中あさみ（マリンバ）https://nakamura89.exblog.jp/26317372/ https://nakamura89.exblog.jp/26317543/

3. アジア作曲家連盟韓国カンファレンス・フェスティバル 2018

（ソウルアーツセンター、淑明女子大学校、漢陽大学校、イルシンホール）

Asian Composers League-Korea［アジア作曲家連盟韓国支部］のカンファレンス・フェスティバル 2018 がソウルで行われ、著者の作品二作上演（1 曲は韓国初演）と講演で訪韓した。音楽祭は 3 演奏会 3 講演で構成され、ACL-Korea が招いたポーランドの弦楽四重奏団 NeoQuartet の演奏で、S. シンプソン、ヤン･ジスン、カン･ドンキュ、パク･ウンキュン、ジュン・ヒョンスクイとポーランドのペンデレツキの弦楽四重奏曲第 2 番そして中村の弦楽三重奏のための＜カサヌヒ＞で構成の第 1 夜（4 月 25 日）、韓国と北朝鮮の首脳会談日に Ensemble Eins の演奏でユ・ヨンウ、M. スタブルフィールド、シン・ユクジン、パク・ジェンウン、ラリー・アラン・スミス、R. カール作品で構成の第 2 夜、台湾の打楽器合奏団 Succession Percussion Group の演奏でチョイ･ジョンフン、チェン･ヒョンス、ホン･ジミン、中村、チェン・イーチェン、チェン・チャンフ作品で構成の第 3 夜（4 月 29 日）となった。https://nakamura89.exblog.jp/27257076/

演奏会は第 1 夜と第 3 夜がソウルアートセンターリサイタルホール、第 2 夜がイルシンホールでの開催、第 1 講演が中村の＜作品世界を通して見る日本の現代音楽＞（淑明女子大学校）、第 2 講演が L.A. スミスの＜自身のオーケストラとヴォーカルミュージック＞（漢陽大学校）、第 3 講演台湾打楽器合奏団の＜伝統打楽器の現代音楽語法＞（淑明女子大学校）が日中に行われた。

中村の＜カサヌヒ＞は、故郷笠縫［滋賀県草津］の由来を語る 20 分 3 章の弦楽三重奏でアジアの原風景を精彩に歓びと共に描き出したもので、翌朝の講演で自身の全創作を通しての作品世界だけでなく、作曲者自身セットアップした金属打楽器で胎蔵曼荼羅型図形楽譜を演奏し、作品理念をその音響も多くの女子作曲学生（音楽学部 600 名のうち作曲学生約 120 名）に伝えることができたことは幸いであった。講演の日の夜は NeoQuartet による 6 名の選抜学生作品とポーランドの中堅作曲家コスチョフで構成された演奏会で、こちらも素晴らしい演奏だった。特に印象的なのは韓国には作曲学生が多いことで、クラシック音楽の基本線が主にコンポーザーパフォーマーで形成される故だろう。会長チュン・スンジェ氏、金眞珠氏に深謝する。

4. チャイナアセアンミュージックフェスティバル 2018

（広西芸術大学［廣西藝術学院］）

2018 China –ASEAN Music Festival が、中国・広西チワン族自治区南寧市の創立 80 周年を迎える広西芸術大学［廣西藝術学院］を舞台に 5 月 29 日より一週間、アメリカ、フランス、ルクセンブルグ、ポーランド、ロシア、日本、マレーシア、フィリピン、ベトナムそして中国各地から 18 団体の西洋オーケストラ・アンサンブル、伝統楽器オーケストラ・アンサンブルを招いて 20 のコンサート、3 のサミットフォーラムが大学の演奏会場並びに市内アートセンターコンサートホールで開催された。

フォーラムでの中村の講演「フィジカルアンダースタンディング & グラフィックノーテーション（身体と図譜）」（英語）では、数十に渡る独奏、二重奏、三重奏、アンサンブル、シアターピース、オラトリオ、オペラからオーケストラまでの自作の基盤をなす図形楽譜作品を自作金属打楽器の自演で紹介した。また自作の世界初演に際しては当初の仏教声明が変更になり、東京の雅楽アンサンブル伶楽舎メンバーと広西芸術大学の教授陣マ・シンチ氏、リュウ・シャンルイ氏とともに自作《禱響 Vox Cordis》を金属打楽器自演により世界初演した。この日本伝統楽器演奏会では友人の中国・星海音楽学院教授陳明志氏の《浄土 Pure Land》で、広西芸術大学伝統楽器アンサンブルと台湾の打楽器メンバー日本の雅楽と中国のベルカントアンサンブルそしてエレクトロニクスを含む日中古今の東西アンサンブルに、私自身も同金属打楽器で参加して世界初演した。https://nakamura89.exblog.jp/27312696

大会のクロージングコンサートの中国伝統楽器による 100 名を超える伝統楽器オーケストラでの新作においても、この陳明志氏の世界の聲を包括した伝統音楽アンサンブルの新境地が天地の楽舞を開いて始まり、24 の発表からなる 3 フォーラム、20 コンサートからなる大学教員職員学生地域市民を巻き込んだ壮大なプロジェクトが 20 時から 23 時近い 3 時間の公演で締めくくられた。今回の音楽祭には著者自身の新作作曲・講演と共に、創案の日用的伝統楽器を持ち込んで演奏者として独奏、四重奏、オーケストラの 3 つを世界初演したこととなる。招聘頂いた China –ASEAN Music Festival、国際交流基金、伶楽舎三浦礼美氏、陳明志先生、

30 個構成の大小金属打楽器群を日本より運んでのプロジェクトに、私の腰椎すべり症の身体状況を慮って全ての場所に車を手配し支援頂いた広西芸術大学美術学院広告学科映像専攻学生リ・ホンクン氏ほか多数の学生市民ボランティアの皆さんに心よりの感謝を捧げたい。

4. キョンギ・カヤグム・アンサンブル定期演奏会（韓国国楽院）

2000 年設立の Gyeonggi Gayageum Ensemble は世界の音楽潮流とのコミュニ ケーションを志向するアカデミックなカヤグムアンサンブルで、現代の作曲家達と国楽界により洗練された現代的創作音楽を主導的に発表してきている。これまで に CD アルバム 4 枚リリース、カヤグム散調の新しい伝統をつくる完結版としての 今回の舞台を 2019 年に 5 枚目の CD として発表予定である。プログラムは世界各地の作曲家で､クリストファー･シュルツ（アメリカ）イ･ボクナム（韓国）中村典子（日本）ヘルムート・ザプフ（ドイツ）ヒョシン・ナ（アメリカ）の 6 名の現代作曲家による新作カヤグム四重奏作品による全作世界初演であった。

作品名は以下の通りである。これらカヤグム四重奏作品群は、京畿カヤグムアンサンブル顧問を務める 龍仁大学校のハンジン教授によって伝統様式からの歴史的作曲家演奏家達のどの系統どの様式に当たる音楽であるかが詳細に研究され、当日作曲家と共に 一作毎に共に作品世界が解説され、美術的に意匠を凝らした舞台で打楽器を伴い世界初演される韓国国楽院での意欲的な定期演奏会はキョンギ・カヤグム・アンサンブルの第 5 集 CD となった。

2018 年 12 月 2 日（日）キョンギ・カヤグム・アンサンブル定期演奏会
SANJO ADDICTION 韓国国楽院
クリストファー・シュルツ（アメリカ）散調ヴァリエーション（世界初演）イ・ボクナム（韓国）ドリーム・オブ・イエロードラゴン（世界初演）中村典子（日本）尋響 simhyang（世界初演）ヘルムート・ザプフ（ドイツ）白頭山のこだま（世界初演）ヒョシン・ナ（アメリカ）メロディー・オブ・ウェイヴス（世界初演）
演奏：キョンギ・カヤグム・アンサンブル　案内：ハンジン［龍仁大学校教授］
http://www.facebook.com/nakamuranoriko（2018 年 12 月 5 日）

5. 日本音楽家訪中団
（北京首都師範大学・中央音楽学院・四川音楽学院、第 12 回金鐘賞閉幕音楽会）

日本音楽家訪中団（日本中国文化交流協会）の一員として北京首都師範大学での講演、中央音楽学院視察、四川音楽学院での発表と第 12 回中国音楽金鐘賞全国大会式典へ参加した。数年前中村研究室で北京首都師範大学の高平教授の弦楽オーケストラ作品と弦楽四重奏作品を日本初演しており、高平教授夫妻の京都訪問時、作曲理論研究クラスで講演頂いた経緯もあり、今回高平教授のクラスで《地球発信型音楽の展開 - 地域的音響による創造を通して》［Glocal

Music development through regional sound creation ］（英語講演、高平教授の中国語訳）と題した講演を行い、教授陣、学生諸氏と交流。中央音楽学院教授陣李嵐松先生等による歓迎夕食会へ出席。故宮博物院、東四胡博物館参観。中央音楽学院王府ホールでの修士演奏（二胡）、日本からの留学生で中国人二胡奏者の楊雪氏主催夕食会出席、早朝成都に飛行機移動。

5年前中村研究室で四川音楽学院の毛竹副教授の古琴と弦楽の協奏曲を世界初演した経緯で、四川音楽学院作曲系の毛竹副教授の研究室と電子音楽系の郭元教授の電子音楽スタジオを訪問、学生諸氏と交流。中村の PC 液晶の破損で上記講演を音声で発表。毛竹副教授の案内で5年前にお招きした青羊宮、青羊琴館の館主古琴奏者張婷婷氏に古琴演奏を伝授いただく。

貴州交響楽団演奏会出席。楽団員に欧州音楽家率が高く、オーケストラはヨーロッパの響であったのが印象的であった。安仁古鎮（古い街並みにオペラハウス、劇場、博物館、国際会議施設など））訪問。中国音楽家協会副秘書長王建国氏主催歓迎夕食会。王建国氏はピアニストユジャワン氏の父。成都金鐘広場モニュメント除幕コンサート出席。第 12 回中国音楽金鐘賞全国大会式典への参加。各学校各地域での覇者たちによるクラシックと中国民謡の紅白歌合戦的独唱のオーケストラ版音楽祭×国民体育大会的大行事。車椅子の中村を支えて頂いた各地の皆様と訪中団の馬込勇団長、小泉恵子先生、佐々木駿先生、倉本理査子氏に深謝したい。

6. 結び　地域共有の可能性

近代化 150 年の音楽近代化 151 年目の 2019 年には、2018 年 6 月の大阪北部地震による延期を含めた国際現代音楽祭アジア管絃の現在を 1 月、6 月、12 月と 3 度開催した。

1 月の音楽祭《汲響 vox caelum et terram》では、前年の音楽祭の延期を学生留学生教員、国内国公立芸大教員、関西一円の大学教員、東西プロフェッショナル演奏家の皆様と共闘、独奏から大編成まで琉球はじめ世界各地の音楽プログラムを取り戻した。

6 月の音楽祭《滔響 Les Jeux d'Eaux》では、沓掛の地のマルチメディアホールである大学会館ホールだけでなく学舎の京都駅前移転の地の元崇仁小学校音楽室とつなぐマルチプログラミングで、京都芸大学舎に近い境谷小学校、交流協定校ノルウェーベルゲン大学グリーグアカデミーを始め、時代と空間、歴史と文化を縦横に結ぶこととなる。

2 月の音楽祭《あわいの翼 Wings of time & space》では講堂で、東西のあわい［間］を人が翼となってつないでゆく。

この 2019 年の 3 つを展望することで結びに変えたい。

近代化 150 周年に＜いのりの京都＞のセレモニーを沖縄慰霊の日 6/23 にもうけた国際現代音楽祭アジアの管絃の現在 2018《汲響》は、直前 6/18 の大阪北部地震による会場施設要点検状況により延期となり、7 月 6 日より数日の西日本豪雨災害の会場状況で試験会場を西文化会館へ急遽移動、8 月の台風続発、9 月の 21 号台風と北海道地震と災害続発に学生移動公演一部休止、と気候変動に苛まれ続けた。まるで 150 年をさかのぼる明治元年の江戸無血開城後の戊

辰戦争、新政府旧幕勢力内戦の夏を思わせるかのような困難至極の環境に数ヶ月にわたって置かれたのである。

からくも京都が当番都市であった東アジア文化都市年の《共響 vox maiorum》2017、平昌ピョンチャンオリンピック直前の《渡響 vox expectat》2018 より継続する《汲響 vox caelum et terram》2019 として、延期後 2019 年 1 月 6 日の国際現代音楽祭も新年早々学科試験を翌日に控えつつ、近代化 150 年を 151 年 へと渡す Credo 六段の箏と三味線と三線と近代オーケストラの調べを縦横の絲に東西南北交差の諸プログラムを熱気溢れる優れた演奏で無事完了させるに至った。オープニングセレモニーはエレクトロニクス、一管［フルート］、一絃一舞［琉球古典音楽独唱（三線）、琉球古典舞踊］、オープニングコンサートは箏・和琴・三絃と西洋管弦による聲と声、ロビーインターリュードは箏唄、オーケストラとピアノ＆室内楽コンサートはフルートコンチェルトから三線協奏曲まで、ノルウェー、アメリカ、韓国、中国、フランス、イタリア、琉球をはじめとする日本の東西南北の音楽が沖縄県立芸術大学教授陣の近藤春恵氏、小内昌也氏をはじめ愛知県立芸術大学小林聡氏、そして大阪音楽大学教授熊谷美紀氏、特任准教授片岡リサ氏、相愛大学大慈弥恵麻先生ならびに日本各地世界各地の作曲家演奏家が多彩な地域と時代を西京の地に結んだ。参加音楽家は以下の通りである。https://www.kcua.ac.jp/20190106_nakamura

《滔響》2019 では、東洋伝統音楽・西洋伝統音楽の深化をひらく対極の新視点からの時間的パノラマ空間的パノラマとして、西京の大枝沓掛のマルチメディアホールの大学会館ホールから 4 年後の京都市立芸術大学新校舎移転地の建物として今年度かぎりの元崇仁小学校音楽室へと進め、特に今回は西洋管弦楽・東洋管絃楽のみならず、ニューヨーカーと近隣の小学生達とシニア世代の加わった移転プレ事業として、東西南北循環融合的創造の新たなプログラムを結集した。

オープニングコンサートでは大学院研究留学生ベン・ビソノさんによるソロエキシビションを皮切りに、境谷小学校児童のみなさんのリンによるフェスティバルファンファーレ、京都山科亀岡のよし笛アンサンブルみなさまがたによるびわ湖のよし笛でしぜんでうたうみんなのうた、そしてホール全体にひびく音楽学演習 i クラスのミュジックコンクレートにみちびかれて開始する作曲理論研究クラスの大学院生達による演奏プログラムは、交流協定校ベルゲン大学のアカデミー名に冠されるノルウェーの作曲家グリーグのアリエッタで始動し、北欧のモリエールと称されるホルベア生誕 200 年の 1884 年 12 月 3 日に初演されたグリーグによるホルベアの時代を、原曲ピアノから作曲者自身のアレンジの弦楽オーケストラへと双方つづけて演奏し、また移転先元崇仁小学校音楽室では、サクソフォンクインテットによってアレンジされたプレリュードでフェスティバル掉尾を飾った。 沓掛の大学会館と駅前烏丸口の小学校音楽室を橋渡しするのは、フランツ・リストのエステ荘の噴水の水、で、長年京都市立芸術大学音楽教育研究会京都子どもの音楽教室の管理責任者をつとめられた朴実先生の東西楽器協奏によ

る한풀이［Hanp'uri］と歌曲《愛》、元崇仁小学校音楽室での近年の作品としては昨年着任教員の酒井健治先生による、リストの《夕べの調べ》にちなむ エチュード第 7 番《夕べの調べのように》である。尺八においてはフルートとの連関の諸相として沖縄県立芸術大学教授近藤春恵先生と本学大学院生伊藤慶佑さんの作品、そして九州大学名誉教授中村滋延先生の尺八作品と共に筆者の尺八の《伊福 inspirare》もホルベアの弦楽オーケストラと出会わせていただき、このように沓掛 - 駅前の両地はピアノ、声楽のみならず弦楽オーケストラ = サクソフォンアンサンブル、韓国伝統楽器 = 西洋現代楽器、尺八 = フルート、古箏 = 箏の楽 = 樂の音で繋がれた。

2019 年 12 月 22 日のアジアの管絃の現在＜あわいの翼 Wings of time & space ＞では韓国、中国、日本の現代の音楽創造の古典から今まさに生まれようとする新作初演に至る作品群で、地から天をのぞみ過去現在未来のあわい［間］を飛翔する音楽を、西洋ベルカント発声と西洋楽器のアンサンブルからソロへと至る日本人作品の現代の古典・現在の律動的創造のプログラムで、日本俗謡のフランス的アンサンブル造型に始まり、ベルカント歌曲への、日本古典の万葉集･後撰集から欧州生活中発露された日本語現代詩の造型、ピアノへの、文明源流のギリシャをのぞむ心景そして金沢の美から古響清新に編む造型、さらに管弦の現代伝統それぞれの螺旋状の構造へ、ヘテロフォニー対位法をベースに、新たな根源的概念が提示される。後半には、西洋楽器から西洋楽器アンサンブルに東アジア圏韓国中国日本による東洋源流的律動の造型の様態を探究したプログラムで、和楽器と西洋アンサンブルの造型へは、日本で修士号博士号を得られた中国の陳明志先生に尺八協奏曲を委嘱、また本学打楽器専攻卒業生で日本楽器プロオーケストラ奏者で和太鼓・三味線の 演奏家・作曲家である山内利一氏の演奏で中村の太鼓協奏曲を、そして西洋アンサンブルへの造型＜朱鷺によせる哀歌＞で、フェニックスのごとく蘇る朱鷺［刻＝トキ＝超調性的音響の時］でしめくくる。中国韓国日本ロシアに見られた朱鷺は 1995 年に日本での最後の野生種 が絶滅したが、同遺伝子を持つ中国の朱鷺を起点に現在、日中韓には約二千羽の朱鷺が生きている。

よりはるかにより深く地域で共有しつつ次なる展開にいそしみたい。

＜関連ウェブサイト＞

https://nakamura96.hatenablog.com　Nakamura lab,composition,Kyoto City University of Arts

https://nakamura89.exblog.jp　りんごの朝の歌　Nakamura Noriko

https://www.facebook.com/nakamuranoriko

https://twitter.com/satohyangxiang　中村典子　Nakamura Noriko